

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒を自立した社会人として送り出すために、社会人としての必要な力を養うとともに、社会に主体的に参画できる人材の育成をめざす。

1. 「ゆっくりしっかり学べる教育」を実践し、基礎学力の向上を図る
2. 個々の生徒に寄り添い、自己肯定感や豊かな人間性を育むとともに、学校が居場所となるように努める。
3. 夢を実現させるためのキャリア教育を推進する。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 社会に必要な基礎的な知識・技能の定着を図り、社会人としての常識を身につける

ア 生徒の学力に応じた教育内容を設定し、学ぼうとする意欲、学び続ける姿勢を醸成し、基礎学力の向上など、確かな学力を身につけさせる。(生徒理解 令和7年度 90%以上にする) ※ (R2:87.1% R3:85.8% R4:89.0%)

イ 授業改善への取組みなどにより授業力の向上を図る。

ウ 1人1台端末の活用方法を研究し、実践に取り組む。

(2) 思考力・判断力・表現力を育成することにより、集団において適切な意見を述べ、行動できる力の育成を図る。

ア 総探PTを中心に充実した「総合的な探究の時間」の実施により、課題対応能力や人間関係形成能力の育成を図る。

(3) 自ら主体的に学ぶ姿勢の育成

ア 「学習環境」の確保のために授業規律の確立を図る。

(生徒向け学校教育自己診断「授業規律」の項目の肯定率を令和7年度 85%以上にする) ※ (R2:69.1% R3:73.9% R4:76.9%)

イ 授業やLHR活動などすべての教育活動を通して、「なぜ学ぶのか」について考えさせることにより、生徒の職業観・勤労観の育成につなげる。

2 豊かな人間性と「社会の一員」としての自覚の醸成

(1) 自己および他者への理解と自己有用感の育成

ア 特別活動や学校行事の充実を通して、自己有用感を育成し、コミュニケーション力を向上させ、集団の中で協力しながら活動できる力を育成する。

イ 生徒の自主的な活動である部活動や生徒会活動の活性化に努める。

(教員向け学校教育診断「生徒会活動支援」の項目の肯定率を令和7年度 89%以上にする) ※ (R2:73.3% R3:88.9% R4:83.3%)

ウ 「あいさつ運動」やボランティアの取組みにより、生徒の人間関係形成能力を養う。

(2) 規範意識の醸成と自己管理能力の育成

ア 規律ある学校生活を通して、基本的な生活習慣の確立をめざす。(年間の生徒登校率を、令和7年度まで90%以上を維持する。)

※ (R2:87.0% R3:88.0% R4:93.5%)

イ 社会の一員として求められる政治的教養や判断力を計画的に育成する。

(3) キャリアプランニング能力の育成

ア 1年次より計画的・系統的にキャリア教育を行うことで、自己実現の意欲を喚起し、進学・就職を希望する生徒の進路決定率を100%になるように努める。(進路決定率 令和7年度 90%以上にする。) ※ (R2:78.6% R3:76.5% R4:86.7%)

イ 就業体験や応募前職場見学等の様々な体験活動を通して、生徒一人ひとりの職業観・勤労観の形成を図る。

3 生徒支援と安全安心な学校づくり

(1) 生徒の個に応じた支援と、生徒が自分らしく安心して通える学校づくり

ア 人権教育を推進し、様々な人権課題の解決に取り組む。

イ SCやSSWの活用を推進し教育相談体制を充実させ、生徒の「居場所づくり」を進めるとともに、合理的配慮にもとづき、「ともに学び、ともに育つ」学校づくりをめざす。

ウ 中退や不登校の減少に取り組む。

※「課題を抱える生徒フォローアップ事業」を活用し、文部科学省が公表した令和3年度全国公立高等学校定時制課程の中途退学率6.9%以下をめざす。(R2:8.5%、R3:7.4%、R4:17.8%)

(2) 安全安心な学校

ア 学校全体として健康安全教育や交通安全教育を推進し、生徒および教職員の健康増進と安全確保を推進する。

イ 全教職員が一致した協力体制を構築し、問題事象等には、迅速で適切な対応を図る。

ウ 災害に備えた危機管理体制を確立する。

(3) 教育活動の広報

ア 家庭や地域の中学校等との連携を推進し、情報発信を積極的に行い、開かれた学校づくりに努める。

4 学校運営体制の改善と人材育成

(1) 教職員の学校運営への参画意識の醸成

ア 企画会議及び運営委員会を学校運営の核として位置づけ、学校運営の確実な定着をめざす。

イ 各学年・分掌・委員会が計画的に業務を運営するとともに、各組織間の連携を密にし校務の効率化を図る。

ウ 主担を任せることで、ミドルリーダーの育成と経験年数の少ない教員の学校運営への参画意識の醸成を図る。

(2) 学び続ける教員集団の形成

ア 教職経験年数の少ない教員を対象とした校内研修「若手教師塾」の実施や教員の自主研修を奨励し、人材の育成を図る。

イ 現場のニーズに即した校内研修を計画的に行うことにより、教員力の向上を図る。

(3) 働き方改革

ア 働き方改革への積極的な取組みにより、教職員の時間外勤務の軽減を図る。

イ 校内ネットワークを含めた ICT 活用を推進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>(生徒の評価)</p> <p>学校のルールを守る 97.8%、遅刻欠席をしない 87.2%、学校生活での先生の指導 87.0%、いじめ対応 94.9%、行事の工夫 93.3%、先生への相談 88.1%、進路や生き方について考える 82.9%、命の大切さ・社会のルールを学ぶ 88.6%、人権意識 90.7%、1人1台端末の活用 93.3%、質問のしやすさ 83.0%、授業のわかりやすさ 95.7%、授業規律 86.4%と多くの項目で肯定的な回答を得た。また、学校へ行くのが楽しい(61.1%→72.7%)、先生への気軽な相談(86.1%→88.1%)や、教室以外に落ち着ける場所あり(71.4%→77.8%)の肯定的評価についても増加している。居場所づくりの取り組みの成果が表れている。また、進路や生き方について考える(84.4%→82.9%)については、昨年度より少し減少しており、キャリア教育について、学校全体でこれまで以上に取り組んでいきたい。</p> <p>(保護者の評価)</p> <p>15項目中13項目で83%以上の肯定的な回答があり、学校が信頼されている結果となった。生徒指導の方針、適切な進路指導、進路についての情報提供、人権意識の育成、生命、いじめ対応、保護者からの相談、部活動や行事の指導、個人情報取扱い方針については90%以上を維持しており、生徒指導、進路指導、人権についてのこれまでの指導の成果が評価されている。また、わからないと答えた回答は15%から5.3%と減少しており、昨年度と比べると、保護者へは本校の様子をより発信できていると考えることができる。しかし、授業参観や学校行事への参加については昨年度より減少しており(78.9%→64.0%)保護者への働きかけにさらに努めていきたい。</p> <p>(教職員の評価)</p> <p>話し合い(94.1%)、生徒指導(94.1%)、教育相談(100%)、部活動(88.2%)、生徒会活動(88.2%)、情報周知(88.2%)、教材の精選(100%)、命の大切さや社会のルール(88.2%)、人権尊重(82.4%)、連携(82.4%)、服務規律(82.4%)ICT活用(94.1%)、ケース会議(82.4%)などが肯定的な回答率が高い項目である。昨年度と比較して、日常的な話し合い(77.8%→94.1%)、生徒指導のコンセンサス(50.0%→82.4%)、教育相談体制(77.8%→100%)、家庭との連携(55.6%→82.4%)、分掌や各学年の連携(55.6%→82.4%)が特に肯定的な回答率が高くなっており、本校の課題であった教職員間の同僚性が構築されつつある。部活動支援、生徒会支援の項目の肯定的な回答率が高く、今年度の大きな取組みである「居場所づくり」を通じた生徒に寄り添った指導・支援の成果が出ている。しかし、キャリア教育や系統的な進路指導においては、評価が下がっており(72.2%→64.7%)、検討の必要がある。適正な役割分担、教員間の相互理解については少しずつではあるが肯定的意見が増えてきている。引き続き風通しのよい職場環境に心がけ、組織的に対応できるようにしたい。</p>	<p>第1回(6月16日)</p> <p>今年度の学校経営計画の内容と重点事項、各分掌からの取組計画等について説明した。 また、スクールミッションを確認いただき、スクールポリシー案も承認いただいた。 ○居場所づくりは大切である。生徒達の多様性を認めていくことが、居場所づくりにつながっていくのではないかと。 ○自己肯定感の醸成には、社会経験の大切さを感じている。今の子どもたちは、社会との接点が少ない。 ○何かと課題が多い中、様々な工夫を凝らし取組みをされている。 ○授業中は、生徒は皆真剣に授業を受けており頑張っている姿が見られた。</p> <p>第2回(11月2日)</p> <p>第1回授業アンケート(7月実施)、生徒生活実態アンケート(7月実施)の結果と考察、学校教育自己診断(12月実施予定)について説明を行い、その後、各分掌より取組みの進捗状況について資料を示して説明を行った。 ○いろいろな形の配慮を行って生徒を支援していただいております。丁寧な指導をされている。アンケートの結果もいいので引き続き頑張ってください。 ○0時間目で日本語指導をされているのは、外国籍生徒にとってとても助かっている。 ○授業アンケートの知識や技能が身につけていると感じている生徒が少ないのは、自己肯定感が低い生徒が多い表れではないかと。ただ、数字につながらなくても、自信を持って取組みを続けていけば、生徒の様子も変わるはずである。 ○地域清掃は広報にもなる。地域とのつながりを大切にしたい。 ○煙草から薬物乱用につながることも生徒には知って欲しい。薬物乱用防止教室は是非続けてほしい。 ○性教育や人権教育等当事者の方を呼んでいただき、生徒は良い経験ができています。</p> <p>第3回(1月25日)</p> <p>第2回授業アンケート(12月実施)、学校教育自己診断(生徒用、保護者用、教職員用12月実施)の結果と考察、各分掌の今年度の取組結果の報告を行った。令和5年度学校評価と令和6年度学校経営計画について提示し、承認をいただいた。 ○若年層の就学支援が問題になっている。スマホからの偏った情報を鵜呑みにせず、職業を知る機会を増やしてほしい。「つなぐ」が大切な時代である。 ○ケース会議やあいさつ運動なども丁寧に行われている。 ○在留資格によって就職できない場合もある。変更も含めてしっかりと指導をお願いしたい。 ○授業時に外国籍の生徒へ同時通訳できる翻訳アプリの使用などはされているのか。何か研究されていれば教えてほしい。</p>

府立布施高等学校 定時制の課程

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 確 かな 学 力 の 育 成	(1) 基礎的な知識・技能の定着を図り、社会人としての常識を身につける ア 基礎学力の向上	(1) ア・年度当初に本校独自の「学力診断テスト」を実施することで生徒の学力を把握し、ゼロ時限などの活用により基礎学力の底上げを図る ・少人数展開・TTなどの授業を継続し、生徒の個々の状況に応じた学習を支援する。 ・到達度の低い生徒に対する学習指導を行い、わからないことを先生に質問しやすい環境をつくる。	(1) ア・教職員学校教育自己診断「到達度の低い生徒に対する学習指導」肯定率75%以上 [72.2%] ・授業アンケート「知識・技能が身についた」肯定率80%以上維持 [91.9%] ・生徒学校教育自己診断「授業でわからないことについて先生に質問しやすい」肯定率78%以上 [76.3%]	ア・教職員学校教育自己診断「到達度の低い生徒に対する学習指導」肯定率70.6% (△)であった。授業力向上委員会での取り組みを行ったが、再検討する必要がある。 ・授業アンケート「知識・技能が身についた」肯定率89.1%であった。(○) ・生徒学校教育自己診断「授業でわからないことについて先生に質問しやすい」肯定率83.0%であった。(◎)
	イ 授業力の向上	イ・学校全体で授業力の向上を推進し「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす。 ・公開研究授業や校内研修を実施し、個々の教員の授業力の向上を図り、わかりやすい授業をめざす。 ・他校の研修へ積極的に参加する。	イ・授業アンケート「生徒理解」肯定率80%以上維持 [89.0%] ・生徒学校教育自己診断「授業はわかりやすい」肯定率80%以上 [78.4%] ・他校の研修への参加(5人以上)	イ・授業アンケート「生徒理解」肯定率92.7%であった。(◎) ・生徒学校教育自己診断「授業はわかりやすい」肯定率95.7%であった。(◎) ・他校の研修へは、14人が参加した。(◎)
	ウ 1人1台端末の活用	ウ・GIGAスクール推進委員会を中心に、ICT活用指導力を向上させるために校内研修を実施し、「1人1台端末」の活用について研究・実践を進める。	ウ・生徒学校教育自己診断「1人1台端末の効果的活用」肯定率80%以上維持 [86.5%] ・ICT活用研修 1回以上	ウ・生徒学校教育自己診断「1人1台端末の効果的活用」肯定率93.3%であった。(◎) ・フォーム作成ツールのより詳しい使い方について、ICT活用研修を1回行った。(○)
	エ 観点別評価の実施と検証	エ・教務部とカリキュラム委員会が連携し、各教科の「観点別評価」の実施状況を確認し、課題の解決を図る。	エ・観点別評価の研修1回以上	エ・観点別評価について主体的に学習に取り組む態度の評価の方法をテーマに講師を招いての研修を1回行った。(○)
	(2) 集団において適切な意見を述べ、行動できるようになる ア 課題対応能力や人間関係形成能力の育成	(2) ア・総合的な探究の時間については、4年間(3年間)を視野に入れた系統的な計画の作成を行い、課題を発見していく能力やコミュニケーション能力を育む。 ・授業中の発表やグループ学習の機会を設け、意見交換の重要性や他者と協同する態度を育成する。	(2) ア・生徒学校教育自己診断「授業で発表する」肯定率65%以上 [60.0%]	(2) ア・生徒学校教育自己診断「授業で発表する」肯定率78.3%であった。(◎)
	(3) 自ら主体的に学ぶ姿勢の育成 ア 学習環境の確保のための授業規律の確立	(3) ア・授業中のスマートフォンの使用や私語、飲食などの指導について全教員の共通理解を深め、統一した指導を行えるよう、生徒指導体制の再構築を図る。	(3) ア・生徒学校教育自己診断「授業規律」肯定率79%以上 [76.9%]	(3) ア・生徒学校教育自己診断「授業規律」肯定率86.4%であった。(◎)

府立布施高等学校 定時制の課程

<p>2 豊かな人間性と「社会の一員」としての自覚の醸成</p>	<p>(1) 自己および他者への理解と自己有用感の育成 ア 特別活動、学校行事の充実</p> <p>イ 生徒会活動、部活動などの活性化と生徒が主体となる活動の支援</p> <p>ウ 「あいさつ運動」等による人間関係形成能力の育成</p> <p>(2) 規範意識の醸成と自己管理能力の育成 ア 学校の教育活動を通しての規範意識の醸成と基本的な生活習慣の確立</p> <p>イ 社会の一員として求められる政治的教養や判断力の育成</p> <p>(3) キャリアプランニング能力の育成 ア 全学年を通しての計画的なキャリア教育による職業観・勤労観の確立</p> <p>イ 就業体験などによる職業観・勤労観の形成</p>	<p>(1) ア・様々な学校行事を通して仲間意識を育み、学校への帰属意識を高める。 ・学校行事やLHR、総合的な探究の時間において生徒に役割を持たせるなど、自己有用感を育む機会を積極的に作る。</p> <p>イ・部活動が居場所となるよう活動日の確保や体験入部の実施等の取組みを行うとともに、各集会にて部活動の紹介などを実施する。 ・生徒秋季発表大会への参加を促す。 ・HPや准校長ブログなどを利用して生徒会や部活動の活動状況を積極的に発信し、生徒会や部活動への参加啓発を促す。</p> <p>ウ・校内において、教員が挨拶を励行することにより生徒に挨拶の習慣付けを行うとともに「あいさつ運動」やボランティア清掃の取組みを継続して行う。</p> <p>(2) ア・学校のすべての教育活動を通じた規範意識の醸成を図るため、教員集団の意識改革を行う。 ・欠席・遅刻・早退・欠課（中抜け）の防止。キャンペーン等を実施し、生徒の規範意識を醸成する。</p> <p>イ・地歴公民科の授業だけでなく、教育活動全般において政治的教養や社会の一員として求められる判断力について育成を図る。</p> <p>(3) ア・4年間(3年間)の系統的な進路指導の計画を全校で共有し、各学年の取組みを計画全体で位置づけ直す。 ・進学・就職希望者に対する進路指導の早期からの充実を図るとともに、ハローワークや外部機関との連携を行い、希望者の卒業時の進路決定率を高める。</p> <p>イ・アルバイト指導やインターンシップなどの就業体験を通して、就職希望者の進路選択の機会を増やす。</p>	<p>(1) ア・生徒学校教育自己診断「行事が工夫されている」肯定率を80%以上維持 [89.7%] ・生徒学校教育自己診断「学校へ行くのが楽しい」肯定率63% [61.1%]</p> <p>イ・部活動の加入率50%以上維持 [59.7%] ・教職員学校教育自己診断「部活動の活性化」肯定率70%以上維持 [72.2%] ・生徒秋季発表大会へ参加する ・教職員学校教育自己診断「生徒会活動を通して主体的に活動できるよう学校全体で支援」肯定率80%以上維持 [83.3%]</p> <p>ウ・「あいさつ運動」ボランティア清掃(各2回以上) [各3回]</p> <p>(2) ア・教職員学校教育自己診断「キャリア教育推進のため、教育活動全般にわたり、生徒の規範意識の醸成に取り組んでいる」肯定率70%以上 [66.7%] ・年間登校率80%以上維持 [93.5%] ・年間遅刻数(のべ人数)昨年度以下をめざす [1187人] ・キャンペーン等の実施2回以上</p> <p>イ・教職員学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ」肯定率80%以上 [77.8%]</p> <p>(3) ア・生徒学校教育自己診断「進路や生き方について考える機会がある」肯定率80%を維持 [84.4%] ・教職員学校教育自己診断「勤労観・職業観を持つ系統的な進路指導」肯定率74%以上 [72.2%]</p> <p>イ・就職希望者・進学希望者の進路決定率80%以上維持 [86.7%]</p>	<p>(1) ア・生徒学校教育自己診断「行事が工夫されている」肯定率93.3%であった。(◎) ・生徒学校教育自己診断「学校へ行くのが楽しい」肯定率72.7%であった。(◎)</p> <p>イ・部活動の加入率は、66.0%であった。(◎) ・教職員学校教育自己診断「部活動の活性化」肯定率は88.2%であった。(◎) ・生徒秋季発表大会へは、作品展示、生活体験発表に17人が参加し、知事賞等の賞を受賞した。(○) ・教職員学校教育自己診断「生徒会活動を通して主体的に活動できるよう学校全体で支援」肯定率は、88.2%であった。(◎)</p> <p>ウ・「あいさつ運動」を7月と10月に2回(○) 校内や学校周りを中心に、地域においてのボランティア清掃を7月と1月に2回実施した。(○)</p> <p>(2) ア・教職員学校教育自己診断「キャリア教育推進のため、教育活動全般にわたり、生徒の規範意識の醸成に取り組んでいる」肯定率70.6%であった。(○) ・年間登校率94.5%(○) ・年間遅刻数723人(◎) ・キャンペーン等の実施6回(ピカピカ大作戦、欠席・遅刻防止キャンペーン)(◎)</p> <p>イ・教職員学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ」肯定率88.2%であった。(◎)</p> <p>(3) ア・生徒学校教育自己診断「進路や生き方について考える機会がある」肯定率82.9%であった。(○) ・教職員学校教育自己診断「勤労観・職業観を持つ系統的な進路指導」肯定率64.7%であった。キャリア教育について再検討の必要がある。(△)</p> <p>イ・インターンシップには看護に3名、保育に4名が参加した。就職希望者・進学希望者の進路決定率85.7%であった。今後も粘り強く指導していく。(○)</p>
--------------------------------------	--	---	---	--

府立布施高等学校 定時制の課程

<p>3 生徒支援を中心とした安全安心な学校づくり</p>	<p>(1) 生徒の個に応じた支援と、生徒が安心して通える学校づくり</p> <p>ア 人権教育の推進 (様々な人権課題への取組み)</p> <p>イ 教育相談体制の充実と合理的配慮</p> <p>ウ 中退、不登校の減少</p> <p>(2) 安全安心な学校</p> <p>ア 健康安全教育の推進 (生徒および教職員の健康増進と安全確保)</p> <p>イ 問題事象等への迅速で適切な対応</p> <p>ウ 災害に備えた危機管理体制</p> <p>(3) 広報</p> <p>ア 家庭、地域との連携推進と開かれた学校づくり</p>	<p>(1)</p> <p>ア・4年間(3年間)を意識した人権 HR を計画、実施し系統的な人権学習につなげる。 ・教職員を対象とした校内研修等の実施により、人権問題への理解を深める。</p> <p>イ・支援コーディネーターを中心に SC や SSW と連携し教育相談の充実を図る。 ・高校生活支援カードやスクリーニングシートを活用し、生徒情報の共有に努め、必要に応じて個別の教育支援計画の作成を行う。</p> <p>ウ・生徒の居場所づくりを推進し、不登校、中退を減少させる。 ・中高連携による不登校生徒への支援を行う。</p> <p>(2)</p> <p>ア・本校の特色やニーズに合う健康安全教育の実践を図る。 ・食物アレルギーへの対応について、校内研修等を通して教職員の意識の向上を図る。</p> <p>イ・学年が中心となり分掌が連携する体制を確立することにより、問題事象の防止に努めるとともに生徒の支援につなげる。 ・会議等で規律面における生徒の実態を共有し、生徒指導方針を確認する。</p> <p>ウ・災害時の避難行動について理解できるよう、リアルな避難訓練を実施するとともに、防災 HR により生徒の意識の向上を図る。 ・災害時の対応について、全日制教員との連携を推進する。 ・緊急時も含め、生徒や保護者、教職員との連絡体制を継続する。</p> <p>(3)</p> <p>ア・HP や「さくら連絡網」を活用し緊急性のある情報だけでなく、日々の学校の様子等を発信し、保護者への情報伝達を密に行う。 ・中高連絡委員会を中心に中学校への情報共有を行う。 ・「布施定だより」の定期的な発行配布や HP の充実により、定時制の魅力の情報発信を行う。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒学校教育自己診断「人権意識が高まる」肯定率 80%以上維持 [82.4%] ・教職員人権研修の実施 2 回以上</p> <p>・教職員学校教育自己診断「人権尊重に関する課題や指導方法について全教職員で話し合っている」肯定率 55% [50.0%]</p> <p>イ・生徒学校教育自己診断「先生に気軽に相談できる」肯定率 80%以上維持 [86.1%]</p> <p>ウ・中退 昨年度以下をめざす [13人] ・再履修(留年) 昨年度以下をめざす [6人] ・長欠(30日以上欠席)(人) 昨年度以下をめざす [44人]</p> <p>(2)</p> <p>ア・生徒保健委員会の開催 2 回</p> <p>・食物アレルギー研修 1 回以上 [1回]</p> <p>イ・年間の懲戒件数昨年度以下をめざす [1件]</p> <p>・教職員学校教育自己診断「生徒指導の方針についてコンセンサスがとれている」肯定率 55% [50.0%]</p> <p>ウ・防災 HR の実施 1 回以上 [1回] ・緊急連絡網の保護者の登録者数 70%以上</p> <p>(3)</p> <p>ア・「さくら連絡網」による配信 ・ブログや HP 等を効果的に更新し、学校情報の発信に努める(90回以上) [122回] ・学校説明会を 2 回実施 [2回]</p> <p>・「布施定だより」の発行年 6 回以上 [9回]</p>	<p>(1)</p> <p>ア・「いじめ」「命の大切さについて」「障がい者理解」などをテーマに人権 HR を実施し、生徒学校教育自己診断「人権意識が高まる」肯定率 90.7%であった。(◎)</p> <p>・「同和問題」「セクハラ」「トラウマケア」などをテーマに教職員人権研修を 7 回実施した。(◎)</p> <p>・教職員学校教育自己診断「人権尊重に関する課題や指導方法について全教職員で話し合っている」肯定率 64.7%であった。(◎)</p> <p>イ・生徒学校教育自己診断「先生に気軽に相談できる」肯定率 88.1%であった。(○)</p> <p>ウ・中退 9 人 (○)</p> <p>・再履修(留年) 2 人 (◎)</p> <p>・長欠(30日以上欠席) 29 人 (◎)</p> <p>(2)</p> <p>ア・生徒保健委員会を 10 回開催し、歯の健康や食育について話し、ポスターを作成した。(◎)</p> <p>・食物アレルギー研修を 1 回実施した。(○)</p> <p>イ・懲戒件数は 0 件であった。(◎)</p> <p>・教職員学校教育自己診断「生徒指導の方針についてコンセンサスがとれている」肯定率 82.4%であった。(◎)</p> <p>ウ・防災 HR の実施 2 回 (○)</p> <p>・緊急連絡網の保護者の登録者数 72% (○)</p> <p>(3)</p> <p>ア・「さくら連絡網」による配信を 44 回行った。(○)</p> <p>・准校長ブログで、学校の様子を 155 回発信した。(◎)</p> <p>・学校説明会を 2 回実施し、保護者からの思いも伝えていただいた。中学校 92 校の訪問を全教員で行った。[R 4:63 校]、また、中学校の進路担当者への広報やテレビでの情報発信も行った。(◎)</p> <p>・「布施定だより」を 9 回発行した。学校説明会等のリーフレットも 4 回作成した。(○)</p>
-------------------------------	---	---	--	--

府立布施高等学校 定時制の課程

4 学校運営体制の改善と人材育成	(1) 教職員の学校運営への参画意識の醸成	(1)	(1)	(1)
	ア 運営委員会を学校の核とした学校運営の確実な定着	ア・運営委員会が学校運営の中心となり校内の諸課題について検討や立案、調整の場とする。 ・職員会議などの場において、組織の位置づけについての周知を図り、組織的な運営・連携の重要性の認識を高める。	ア・企画会議の定例での実施 ・教職員学校教育自己診断「各分掌や各学年の連携」肯定率 60% [55.6%]	ア・企画会議を毎週金曜日に行った。 ・教職員学校教育自己診断「各分掌や各学年の連携」肯定率 82.4%であった。(◎)
	イ 分掌等会議の充実と組織間の連携を図った校務の効率化	イ・分掌等運営シートを活用し、各分掌や学年、委員会などの意見を組織間で迅速に情報共有を図り、効果的な会議の運営を図る。	イ・教職員学校教育自己診断「教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担」肯定率 60% [44.4%]	イ・教職員学校教育自己診断「教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担」肯定率 58.8%であったが、昨年度より大幅にアップしている。(○)
	ウ ミドルリーダーの育成と教職経験年数の少ない教員の参画意識の醸成	ウ・経験年数の少ない教員を主担に登用し、ミドルリーダーを育成するとともに学校運営への参画意識の醸成を図る。	ウ・教職員学校教育自己診断「学校運営に教職員の意見が反映されている」肯定率 60% [50.0%]	ウ・教職員学校教育自己診断「学校運営に教職員の意見が反映されている」肯定率 47.1%であった。分掌等から意見を集約していく体制を検討する。(△)
	(2) 学び続ける教員集団の形成	(2)	(2)	(2)
	ア 教職経験年数の少ない教員を対象とした校内研修などによる人材育成	ア・教職経験年数の少ない教員対象の校内研修「若手教師塾」の内容を精選して実施する。 ・他校の研修などへの積極的な参加と研修内容を伝達する場を設定する。 ・経験年数の多い教員をメンターとして経験年数の少ない教員を OJT を通じて指導し、相互の気づきにつなげる。	ア・「若手教師塾」の実施(6回以上) ・研修内容を職員会議で伝達する ・教職員学校教育自己診断「経験年数の少ない教員を学校全体で育成」肯定率 69% [66.7%]	ア・「若手教師塾」を12回実施した。(○) ・研修内容を職員会議で伝達する機会を7回設けた。(◎) ・教職員学校教育自己診断「経験年数の少ない教員を学校全体で育成」肯定率 41.2%であった。初任者がいなかったことも影響していると思われるが、今後、初任者がいなくても全体で指導できる体制を検討する。(△)
イ 校内研修の計画的な実施	イ・企画会議、運営委員会などを通して研修の精選や学校のニーズに合う研修の計画を行う。	イ・教職員学校教育自己診断「校内研修の計画的実施」肯定率 69% [66.7%]	イ・教職員学校教育自己診断「校内研修の計画的実施」肯定率 70.6%であった。(○)	
(3) 働き方改革に向けた取り組み	(3)	(3)	(3)	
ア 時間外勤務の削減	ア・在校等時間の管理と教職員への周知により、時間外勤務の抑制と教職員の意識改革に努める。 ・全校一斉定時退庁日を金曜日とし、計画的に校務を遂行するとともに、教員間の連携を図る。	ア・月ごとの時間外勤務状況を教職員一人ひとりに提示 ・時間外勤務(平均)年間 240h 以内[172.9h]	ア・月ごとの時間外勤務状況を教職員一人ひとりに提示し、金曜日には全校一斉定時退庁日である旨、連絡会で連絡し、教員の意識を向上させた。(○) ・時間外勤務(平均)年間 127.0h であった。(2月末)(◎)	
イ 校内ネットワークを含めた ICT 活用の推進	イ・会議の効率化や機能の充実を図る。	イ・資料の事前提出、会議のペーパーレス化 ・職員会議の1h以内での実施	イ・職員会議をノートパソコンを使って行った。その結果職員会議も1h以内で実施できた。(○)	